



1 ぼく・わたしが考える未来の山形

わたしたちが住む山形市は、美しい山々や河川の清らかな流れ、市街地と田園が共存する景観などの豊かな自然、城下町としての歴史や文化、食に代表される固有の生活文化、県都としての多様な産業の集積、思いやりの心で支えあう地域の絆など、先人たちが育んだ市民共有の貴重な財産である「山形らしさ」があります。

この魅力あふれる郷土の「山形らしさ」を学校での学びで、子どもたちはどのような未来の山形をイメージしているのでしょうか。

市内3学級での実践を次に紹介します。



どんな未来の山形を考えるかな？

(1)生活科2年：スクラムたんけんたい 明治地区をゆく

《明治小学校 峯田学級》

単元計画

- 1 まちに出てはるさがしをしよう
- 2 明治地区の「いいね」をさがそう
- 3 まちの「気になる」ところを調べよう
- 4 わかったことを発表しよう
 - ・まちのいいところを劇で紹介しよう
 - ・明治の「いいね」をポスターにしよう
 - ・20年後に残したいものを紹介しよう

まちを知るきっかけとして、春さがしから始めました。学校の周りだけでなく、いろいろな場所で春さがしをしたことにより、まちの中にある気になるものが見えてきました。また、クラスでまちを歩くことにより、お気に入りの場所をみんなに紹介する姿も見られました。まちたんけんをくり返す中で、たくさんの「いいね」「気になるもの」を発見し、気付きの質が高まりました。

学習の中で「気になる」という疑問を解決するために、まちの人にインタビューをしたり、見学させていただいたりなど、人とのふれあいや五感を使った体験活動を大事にしてきました。まちの人たちのやさしさを感じることができた子どもたちは、ふるさとである明治地区がさらに好きになったようです。

ぼく・わたしが考える未来の山形

田中の川をのこしたいです。
わけは、いつまでもきれいに、さもちよく見られるように、こいなと、いろいろな魚が泳ぐように、20年後ものこしておきたいと思います。



ピザリアは、自分にとって大切な場所です。なぜかというと、それは、ピザもおいしいし、しぜんかいっぱいだし、それにやさいをそでている場所だからです。



(2)社会科4年：山形市の「ふるさとCM」を考えよう

《桜田小学校 五十嵐学級》

単元計画

- 1 都道府県の3ヒントクイズを作ろう
※地方毎に興味のある都道府県を選ぶ
※日本地図にまとめる
- 2 山形県の3ヒントクイズを作ろう
①庄内地域 ②最上地域
③置賜地域 ④村山地域 ※県地図にまとめる
- 3 山形市の「ふるさとCM」を考えよう
①「ふるさとCM大賞」を視聴する
②山形市のよさや特色を調べる
③キャッチコピーを考える
④考えを紹介し合い、クラスでキャッチコピーのベスト3を決める
- 4 学習の「振り返り」を書く
※山形のよさとこれからの山形市について

地図帳を活用し、クイズのヒントとなるものを調べる活動を通して、子どもたちはその地域の特色を感じながら、都道府県や市町村の場所や名称を覚えていきました。

日本全体を概観した後に、山形県内にある各市町村の特色を調べ、県地図にヒントをまとめていく活動を取り入れました。次に、毎年YTSが放送している「ふるさとCM大賞」を視聴しました。各市町村が地域のPRポイントを、映像やキャッチコピーなどを通して訴えていく番組です。

山形市以外のCMを見せ、「山形市のCMをつくる」とすれば、何を取り上げどんなキャッチコピーをつくるか？」を考えさせました。子どもたちは、インターネットなどを活用して山形市のよさや特色を調べました。クラスの1位となったキャッチコピーは『進撃の芋煮』でした。

ぼく・わたしが考える未来の山形

山形市には、昔から受けつがれてきた物や有名な物がたくさんあります。たとえば、サクラホは山形市で採り宝石と言われて親しまれてきました。ラフランスは、フルーツ界の女王と言われて食べられてきました。しょうかく後、少しおいてから食べるとあまくておいしいです。山寺も有名な場所です。五十年に一度だけ「ご開帳」があり、いつもより人がたくさん集まり、こみ合います。このように、たくさんのおみやげや場所が山形市にはあります。何年たっても山形市の「ここが一番」という所をなくさずに山形市に親しんでいきたいです。

山形市について、知らないこともあったけれど、いろいろな名物があって、山形はあらためていい所だと思いました。セロリや悪戸いもなど、おいしいものがたくさんあって「山形は食の市」かもしれないと本気で考えました。これから山形は、もっと名物が増えて、歴史と食のいい所(山形市)みたいな感じで、「朝の情報番組で紹介された」というのもうれしいです。



(3)小学校5年生：道徳「ヤッショーマカショに込めた思い」

《東小学校 大木学級》

学習計画

- 1 山形花笠まつりの歴史を知ろう
・ 昨年で50回目を迎えた
・ 踊り手が3,600人(25団体)から13,500人(152団体)まで増えた
- 2 花笠音頭の発祥を知ろう
・ 100年前に尾花沢市の徳良湖の築堤工事の作業が振り付けのもととなった
- 3 ヤッショーマカショのかけ声の由来を想像し、自分が気に入ったものを選ぼう
・ アイヌ語説、尾花沢の方言説、やしろんさんにお任せ説
- 4 花笠を編むおばあちゃんたちの思いを考えよう
・ 11月から4月まで、製作に取り組んでいる
- 5 花笠音頭の歌詞を味わおう
- 6 学習の振り返りを書こう

東北四大祭りの一つ、花笠まつりの歴史や花笠音頭の発祥について知るなかで、花笠まつりにかかわる人々の思いについて考えました。

「ヤッショーマカショ」というかけ声には様々な由来があります。その中の3つの説を取り上げ、自分がこれだったらいいなと思ったものを選び、その理由を発表し合いました。

また、踊りで使用する「花笠」が一つ一つ手作りされていることや、大雨の中でも踊り手の方々に絶えず声援を送る観客のみなさんの姿を通して、花笠まつりがたくさんの人たちの熱い思いで創り上げられていることを深く感じました。

学習を通して、半世紀を迎えた花笠まつりと山形への愛着をさらに深いものにすることができました。

ぼく・わたしが考える未来の山形

わたしは、今まで何気なく花笠音頭をきいていたけれど、1つ1つの歌詞には意味があって、山形の人たちの思いが込められていることがわかりました。花笠は地いきの方々が祭りの成功のために、ていねいに心をこめてつくっていると知りました。この祭りを計画している方々も、1年前から観客の方やおどる方のために一生懸命考えて下さっているのはありがたいです。わたしはこれから花笠祭りに行か時、地いきの方々ががんばってつくりあげていることを忘れないで楽しみたいです。

ぼくは、昔から受けつがれてきた花笠祭りの伝統を学ぶことが出来てよかったです。「ヤッショーマカショ」の歌詞には、いろいろな説があり、とても昔からこの歌詞が生まれていたということもわかりました。山形の花笠では、時には大雪、大雨などの悪天候にさらされとも、決してくじけずに1.2kmもまどることが分かり、まどることの責任感も同時に分かりました。大昔から形を変えながらも必死で守ってきた伝統を、これからも100年200年とずっと守っていきたいです。ぼくたちもできることは精一杯やって、山形の未来を豊かにしていきたいです。